

大学院「特別セミナー」開設にあたって

仏教学会会長 福 島 光 哉

わが大谷大学の大学院においては、将来の大学院のありかたを摸索しつつ、とくに国際性豊かなカリキュラムの編成を目指して始動を開始した。周知のごとく、最近多くの大学院がようやく今までの殻を脱皮して、新しい社会の要求に応えるべく、将来へむかっの構想を検討しつつあるのだが、本学でも本学独自の大学院のありようを踏まえながらも、より広く開放された大学院として生まれかわることが求められているのである。

そこで本学が第一に着手しようとしたのが、大学院レベルでの国際的な学術交流を、実質的なカリキュラムの上に具現していこうということである。そのために、大学院の正規の科目として「特別セミナー」を設置して、本年度より実施する運びとなったのである。この「特別セミナー」のプログラムとは、現在世界各地で活躍され且つ注目されている一流の研究者を、本学の「客員教

授」として迎え、三年間のうち二回にわたって集中講義を開講する制度である。そしてこのセミナーには、本学の大学院生をはじめ、教職員や他大学の大学院生らの聴講をも広く期待するというのである。

このたびの「特別セミナー」を新設するにあたって、仏教学専攻の分野においては、本学の優れた学問の遺産を礎石として、国際的な研究レベルを一層充実させ発展せしめるための絶好の機会であると認識し、早速このプランによる「特別セミナー」の実施に踏み切ったのである。そして本年度から、まず Paul Harrison 教授 (Cantebury 大学) と Louis O. Gómez 教授 (Michigan 大学) という、優れた研究者を客員教授としてお迎えすることとなった(但し、Gómez 教授のセミナーは来年度から開講)。広く学界に寄与できるように念願するとともに、諸賢のご協力を乞う次第である。